

令和 3 年度

苫小牧市美術博物館事業評価報告書

(令和 2 年度美術博物館自己点検評価に関する報告)

令和 4 年 5 月

苫小牧市美術博物館協議会

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2	苫小牧市美術博物館自己点検評価の流れ・・・・・・・・	3
3	自己点検評価の結果・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	(1) 展示事業・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	(2) 教育普及事業・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	(3) 調査研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	(4) 資料の収集・保存・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	(5) 管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・	8
4	自己点検評価シート(一次・二次評価)・・・・・・・・	9
5	これからの美術博物館のあり方・・・・・・・・	19
6	苫小牧市美術博物館協議会委員名簿・・・・・・・・	20

1 はじめに

当館は、国内でも数少ない美術館、博物館、埋蔵文化財センターとしての3つの機能を有しております。それらの共存する機能を活かし、市民が美術・歴史等に触れ、学習によって豊かな感性を育てるとともに、歴史・考古・自然史の各資料や美術作品を収集・保存、調査研究し、市の財産として後世へ継承していくことが当館の使命であり、この使命に基づき3年毎に「苫小牧市美術博物館実施計画」を策定しております。

令和2年度は、「苫小牧市美術博物館実施計画」の3期目（令和2～4年度）の初年度にあたり、1期目、2期目で取り組んできた教育普及、調査研究、資料の収集・保存の各活動を深めていくことを方針として努めてまいりました。

この実施計画で示した目標の達成度を検証するためには、様々な方法で評価を行う必要があります。そのため、当館ではアンケート等により事業に対するご意見やご要望を伺い、事業の結果についての自己評価（一次評価）を行いました。その結果を踏まえて美術博物館協議会委員による外部評価（二次評価）を行っていただきました。自己評価と外部評価をまとめた本報告書を公開するとともに、これからの博物館活動の改善に活かしてまいります。

令和4年5月

苫小牧市美術博物館
館長 藤原 誠

2 苫小牧市美術博物館自己点検評価報告の流れ

■概要

苫小牧市美術博物館自己点検評価報告は、現在行っている活動を振り返り、適正に行われているかどうかを自己点検することで課題や反省を自覚し、改善点の検討につなげるものである。

■自己点検評価の流れ

年度当初

「公益財団法人日本博物館協会 博物館自己点検システム」を基にした評価指標（年間目標）の設定



年度末

【一次評価（自己評価）】

評価指標を基にした評価	具体的な内容を総括的に評価	客観的な視点
自己点検評価シート ・大項目は「苫小牧市美術博物館実施計画」に基づき設定（大別すると5事業の活動計画に分類） ・必要に応じて、利用者の声であるアンケート結果を反映させる ・スタッフ全員による評価結果の中央値を館による一時評価とする	I. 展示事業、II. 教育普及事業に関する報告と評価 ・事業内容、観覧者・参加人数、アンケート内容等の報告及び所見 III. 調査・研究に関する報告と評価 ・各学芸員の1年間の研究テーマに基づく業務内容の報告及び所見 IV. 資料の収集、保存に関する評価 ・該当する方針に基づいて収集し、適正に管理をしているか、どうかを評価 V. 管理運営に関する評価 ・施設の改善に努め、効率的に運営管理しているか、どうか等を評価	公益財団法人 日本博物館協会「博物館自己点検システム」参照 ・全国の博物館・美術館の自己点検に使用されている点検システムを参考資料に採用する



【二次評価】

一次評価を美術博物館協議会に提出。各委員が活動内容や評価指標（目標）の達成度を第三者の目線でチェックしたものを二次評価とする。



一次評価と二次評価をまとめ、苫小牧市美術博物館事業評価報告書を作成する。

3 自己点検評価の結果

(1) 展示事業

【方針】

博物館と美術館の複合施設として様々な展示活動を実施する。

- ① 複合施設としてそれぞれの特性を活かした新しい視点による事業を実施する。
- ② 常設展の情報の更新やデータの追加など、常設展の充実に努める。
- ③ 他都市館園や地元企業、外部機関と積極的に連携を進め、様々な特別展、企画展を開催する。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

- ・特別展を1回、企画展を4回、収蔵品展を1回、中庭展示を2回開催した。
- ・特別展「生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド～」は、科学と芸術などの境界を超えて広がりを見せた領域 横断的な芸術作品及び資料を紹介し、芸術に関心がある方のみならず、科学の分野に興味を持たれている方、小中学生など多様な層に訴える展示会となった。
- ・企画展「水と生命～川と生き物のつながり～」は、休館により期間は短縮したが、本市の多様な「水の自然」を知ってもらい来館者に自然への関心を高めてもらう展示会となった。
- ・企画展「八王子千人同心と蝦夷地」は、蝦夷地移住の実績と当時の諸外国との関係を紹介するとともに、釧路市で発見された「原胤敦奉納鰐口」を本展で初公開した。
- ・企画展「紙とアート 吉田傑のダンボールといきもの」は、ダンボールを素材として等身大の動物を制作する造形作家・吉田傑の作品に当館所蔵資料を並置するなど趣向を凝らし、「紙のまち苫小牧」ならではの展示会となった。
- ・企画展「総天然色！考古資料のあざやかな世界」は、考古資料の色に焦点をあて、考古学のみならず美術的な側面からも資料を見てもらう展示会となった。
- ・前年度に引き続き、令和2年度もコロナ禍による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響があり、全体的な入館者数は伸び悩んだが、各分野において学芸員の調査研究の成果を基にした展示会を取りそろえ、当館の独自性を示すことができたと考えられる。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・市民にとっていつも興味深い内容の展示が行われている。
- ・来館者数に比べ、アンケートの回答者の割合が低い場合は、抜き取り調査などを行うことを検討していただきたい。
- ・複合施設ではあるが、年に1回以上純粋な美術展を開催してほしい。
- ・開設10周年を迎えるにあたり美術部門の常設展示を設置してほしい。

(2) 教育普及事業

【方針】

子どもから高齢者まで幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施する。

- ① 市民の自然、歴史、考古および文化芸術への多彩なニーズに応えるため、各種講演会、講座、ワークショップなど多彩な事業を展開する。
- ② 学芸員の専門性を活かした事業を実施し、学ぶ喜びを得る機会を提供する。
- ③ 学生や教員など学校教育と連携し、子どもたちの学習意欲や豊かな心を育む。
- ④ 市民がより深く学べる場をつくり、次世代の担い手を育てる。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

- ・通年プログラムとして実施している「美術博物館大学講座」、「子ども広報部びとこま」、「古文書解読講座」は人気事業として定着している。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により「美術博物館祭 2021」など、いくつかの事業は通史や回数を減らさざるを得なかった。
- ・学校連携プログラム「郷土学習」、アウトリーチ事業「みゅーじあむ in スクール」は、感染対策のため、プログラムを変更した上で実施した。
- ・コロナ禍前より少数となっているが、小学校授業での当館の利用や学芸員実習など感染対策をした上で実施することができ、児童から社会人までが幅広く当館を活用し、地域の教育施設としての機能を果たすことができたと考える。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・市民が受講できる講座が充実している。
- ・参加者の年齢層が高く、若い世代の参加が課題である。
- ・コロナ禍において、できる限りの努力をされている。
- ・コロナ禍でも実物に触れる機会の確保を工夫していただきたい。

(3) 調査研究活動

【方針】

自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収蔵する資料に必要な調査研究活動を行う。

- ① 収蔵資料に関する調査研究を推進する。
- ② 樽前山麓及び勇払原野を中心とした、苫小牧周辺地域に関する調査研究を行う。
- ③ 大学などの高等教育機関、他都市館園などと連携を深め、グローバルな視野で苫小牧の発展に寄与する調査研究を行う。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

- ・特別展、企画展を開催している全国の美術館、博物館では、年間3、4回の開催が一般的となっている。それに比べて約2倍の展示会を開催している当館では、調査研究は主に次年度以降の展示会に向けての位置付けとなっている。
- ・特別展「生誕100年 | ロボットと芸術～越境するヒューマノイド」の記録集の発行に見られるように、展示事業と調査研究は一体であり、関連事業として教育普及事業にも有機的に結びついている。
- ・展示会開催のためには、数年前からの調査が必要であり、こうした現状を理解していただくため、自助努力を続けるとともに、これまで以上に発信を行う必要があると考える。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・市が生物多様性に着目するとのことだったので、丁寧な調査を行っていただきたい。
- ・教育普及や展示活動が重要視される風潮にあるが、しっかりとした研究活動が行えて、学術的成果があげられる体制を整える必要がある。

(4) 資料の収集、保存の方針

【方針】

苫小牧周辺地域の資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存するとともに他館との連携を行い、情報共有を図る。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

- ・令和2年度の収集資料は、歴史2件、自然史2件であった。
- ・近年は、重複資料の収集をお断りする措置をとっているため、減少傾向にある。
- ・老舗店の閉店等による歴史資料の増加、郷土作家の没後に遺族からの寄贈の申し出も予想され、収集件数の変動が見込まれる。
- ・博物館開館から37年、美術館設置から9年が経過し、収蔵庫の狭隘化が課題となっている。
- ・資料の収集方針及び改善すべき点を明確にし、課題解決に努める必要がある。
- ・令和2年度の貸出資料は、写真や映像資料のデータ提供依頼が多く、特に国立アイヌ民族博物館の開館をきっかけとして、アイヌ資料の需要が目立っている。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・資料、収蔵庫の整理は、長年の課題であると思われる。
- ・資料のデジタル化から利活用まで進めていただきたい。

- ・資料のデジタル化について、具体的な計画を策定すべきである。

(5) 管理運営

【方針】

複合施設の美術博物館として、施設の安全面と市民の利便性を考慮して、使いやすい施設を目指す。

- ① 安心できる美術博物館として施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていく。
- ② 事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理する。
- ③ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。

<一次評価（美術博物館による自己評価）>

- ・施設・設備については、全体が老朽化しているため、維持管理のため独自の点検を行っている。案内表示も改善を図っているが、今後は市建築等の専門職員の意見も反映させたい。
- ・運営・管理については、全職員で週1回の定例会議を開き、担当者間のミーティングを随時行うなど、緊密なコミュニケーションを行って事業を進めていることができています。入館者の目標については、年間32,500人、特別展が5,000人、企画展は各回3,000人の目標を設定している。
- ・広報については、「美術博物館だより」や「びとこま」など紙媒体のものを発行したほか、ホームページ、フェイスブック、ツイッターを運用し、利用者の利便性の向上を図っている。

<二次評価（美術博物館協議会委員による評価）>

- ・二次評価の中央値はA評価であった。
- ・館内の清掃が行き届き、快適に過ごせる。
- ・1階から2階への動線が分かりづらい。
- ・施設内外が暗い。
- ・施設の維持、改善について複数年計画を策定すべきである。
- ・収蔵庫の狭隘化の問題を解決してほしい。
- ・建物、ロケーションが素晴らしいので、もう少し入館者数の目標を多くすべきである。
- ・外部資金の獲得に努めていただきたい。
- ・目標が未達だった場合のフィードバックをシステム化する必要がある。
- ・展示事業の目標数値が低い。
- ・広報活動が、どの程度来館に繋がっているか分析し、業務量を調整すべきである。
- ・幅広い市民参加を検討すべきである。
- ・正面玄関に企画展等の看板がない時期は、開館しているか分かりづらい。
- ・入館者を増やすため、エントランスホールを明るくする等の工夫が必要である。

4 自己点検評価シート（一次・二次評価）

一次評価及び二次評価の評価基準は以下に定める。

A：成果を挙げている（90－100%）

B：ほぼ達成している（70－80%）

C：より一層努力を要する（50－60%）

D：努力が結果に結びついていない。方法そのものについて再検討を要する（50%未満）

I 展示事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標	評価・コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
博物館と美術館の複合施設として、様々な展示活動を実施します。	<p>1 展示方針を策定し、計画的に展示を行っている。</p> <p>＜評価＞A 苫小牧市美術博物館実施計画(3か年計画)を策定している。</p>	<p>＜評価（中央値）＞A ＜内訳＞ A：8 C：2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民にとっていつも興味深い内容の展示が行われていると思います。 ・来館者数に比べ、アンケート回答者の割合が低い場合は、実態を表していない可能性があります。抜き取り調査なども行うことを検討ください。 ・複合施設ではあるが、年に一度や二度は、純粋な美術展を開催すべき。 ・企画展の計画性、展示等は評価できるが、開設10周年を迎えるにあたって美術部門の常設展示を設置すべき。他館からの賃借は、もう少し工夫、努力をお願いしたい。
	<p>2 収蔵品展の開催および常設展の定期的な更新を実施している。</p> <p>＜評価＞A 収蔵展示室の定期的な更新や特集展示などを実施。2階展望ロビーで各分野の資料を順次展示している。</p>	
	<p>3 展示図録やガイドブックを作成・配布（販売）している。</p> <p>＜評価＞A 各展示会にて作品リストのほか、特別展「ロボットと芸術」では記録集を作成した。</p>	
	<p>4 館の専門スタッフ（学芸員など）による展示の案内・解説、定期的実施している。</p> <p>＜評価＞A 各展示会において担当学芸員による展示解説会のほか、担当学芸員の司会進行によるアーティストトーク等を実施した。</p>	
	<p>5 複合施設としての特性を生かした展示活動をしている。</p> <p>＜評価＞A 企画展「水と生命」「紙とアート」において自然史と美術の資料を展示するなど、多角的な視点からのアプローチを実施した。また、同時開催の企画展「考古資料のあざやかな世界」と収蔵品展「色と絵」では、「色」を共</p>	

	通テーマに連携した展示を展開した。	
	6 他館や他団体との資料貸借により、幅広い展示活動を実施している。	
	<評価>A 各展示会において、道内博物館、美術館等や作家所蔵の資料を借用した。特に企画展「八王子千人同心と蝦夷地」では、資料の借用を通して姉妹都市である八王子市との関係強化につなげた。	
	7 アンケート結果により、来館者の高い満足度指数を得られている。	
	<評価>A 各展示会においてアンケートを実施。いずれの企画についても、6割以上「良い」という評価を得ている。	

II 教育普及事業

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標	評価・コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
子どもから高齢者まで、幅広い市民を対象にした多彩な教育普及事業を実施します。	8 教育普及活動を、策定した方針のもとに計画的に行っている。	<評価（中央値）>A <内訳> A:10 ・市民が受講できる講座も充実しています。しかし、参加者の年齢層がきわめて高く、若い世代の参加が課題と見受けられます。 ・コロナ禍において、できる限りの努力をされていると思います。 ・コロナ禍でも、実物に触れる機会の確保を工夫してほしい。
	<評価>A 苫小牧市美術博物館実施計画第3期、および令和2年度苫小牧市美術博物館事業計画に基づき、教育普及活動を実施した。	
	9 教育普及活動について参加者数の目標を設けている。	
	<評価>A 展示会等の観覧者数の目標は設定している(3,000人)。各学芸員が実施している行事等は館全体としての目標は設定していないが、担当学芸員において、都度目標（定員）を設定した。	
	10 複合施設としての特性を活かした教育普及事業を実施している。	
	<評価>A 専門分野の違う学芸員が協力して「美術博物館大学講座」を6回（のべ301名）、「無料観覧日」を1回（340名）、博物館実習（7名）を実施した。	

<p>11 他館・大学等と連携したセミナー、研究会、ワークショップ等を行っている。</p> <p>＜評価＞A 美術博物館大学講座では4つの機関に講師を依頼して実施したほか、各企画展の関連イベントで他団体等から講師を招いて講演やワークショップなどを4回実施した。また、樽前 arty プラスと共催で子ども広報部「びとこま」を7回実施した。</p>	
<p>12 博物館の利用についての講座、学芸員の仕事を体験する講座、バックヤードツアーなど、館の利用を支援する教育普及活動を実施している。</p> <p>＜評価＞B 教育のための博物館の日、総合学習職業体験はコロナ禍により中止となったが、標本づくり体験の講座を1回（5名）、博物館実習（7名）を実施した。</p>	
<p>13 入館者用の図書・情報コーナー（室）を設けている。</p> <p>＜評価＞A エントランスにデジタルミュージアム、2階に図書コーナーを設置している。</p>	
<p>14 出張・移動活動（アウトリーチ活動）を行っている。</p> <p>＜評価＞A 講師派遣による講座を11回（405名）、「みゅーじあむ in スクール」を2回（171名）実施した。</p>	
<p>15 学校と連携した行事や教員向けの研修会を充実させている。</p> <p>＜評価＞A 市内小3、4年生を対象にした「郷土学習」を24校（1,193名）、学校への講師派遣を小学校4校に5回（218名）、「みゅーじあむ in スクール」を小学校1校（43名）、中学校1校（128名）実施した。</p>	
<p>16 博物館実習の実習生を受け入れている。</p> <p>＜評価＞A 8月18日から28日までの8日間、実習生7名を受け入れ、学芸員がそれぞれの専門性を生かしたプログラムを実施した。</p>	

	<p>17 アンケート結果により、参加者の高い満足度指数を得られている。</p> <p>-----</p> <p>＜評価＞A ほとんどの行事においてアンケートを実施し、5段階評価の満足度の平均において最高評価か次点評価を得られている。今後もアンケートの結果を活かした美術博物館の運営に努めていく。</p>	
--	---	--

Ⅲ調査研究活動

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標 ----- 評価・指標に対する実績・評価理由	評価・コメント
自然、歴史、考古、文化芸術に関する基本的な調査研究のほか、収集する資料に必要な調査研究活動を行います。	<p>18 専門職の学芸員が常勤として配置されている。</p> <p>-----</p> <p>＜評価＞A 今年度は8人の専門職の学芸員を配置している（美術3名、歴史2名、考古1名、自然史2名）。※うち美術1名は育児休暇中。</p> <p>19 学会の大会や他館、他機関主催の研修や研究会に業務として学芸員を派遣・参加させている。</p> <p>-----</p> <p>＜評価＞A 北海道ミュージアムマネジメント研修会に1名、全国美術館会議の学芸員研修会に2名が業務として参加した。</p> <p>20 展示や教育普及、調査研究の方針、保存など学芸員の活動の成果を館として刊行物等で公開している。</p> <p>-----</p> <p>＜評価＞A 定期刊行物として年報7号、紀要6号、美術博物館だより8号を発行した。また展示会の刊行物として、特別展「ロボットと芸術」の記録集を作成した。</p> <p>21 館として調査研究の方針・計画を策定している。</p> <p>-----</p> <p>＜評価＞A 苫小牧市美術博物館実施計画で方針を策定し、調査研究活動に努めた。</p> <p>22 収集している資料と関連する学問分野について、調査研究に取り組み、館として専門誌・</p>	<p>＜評価（中央値）＞A</p> <p>＜内訳＞A:7 B:2 C:1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が生物多様性にも注目し、今後何らかの示す予定とのことですので、調査をぜひ丁寧に行っていただきたいです。 ・表面的に教育普及や展示活動が重要視される風潮がありますが、それらは独自の研究に基づくものでなければ内容の薄いものになります。しっかりとした研究活動が行えて、学術的成果があげられる体制を整える必要があります。

<p>専門書を購入したり機材・器具を整備したり、調査研究するための環境整備(予算措置等)を行っている。学芸系職員の勤務時間・職務内容について、調査研究遂行のための配慮を加えている。</p>	
<p>評価>B 活動調査研究費として必要な予算を計上しており、調査研究遂行のための予算措置はなされている。ただし、調査研究のための勤務時間の確保や環境整備については課題といえる。</p>	
<p>23 資料の管理・修復・保存、展示・教育普及活動の理論や方法、博物館経営など、博物館学分野での調査研究に取り組んでいる。</p>	
<p>評価>B 研修会に参加するなど個々での活動はあるが、調査研究以外の展示業務等もあり、博物館学分野での調査研究までには至っていない。</p>	
<p>24 地域への貢献を視野に苫小牧を中心とした地域や関連資料について、調査研究に取り組んでいる。</p>	
<p><評価>A 各分野において、苫小牧を中心とした研究課題を設定している。その成果を各展示会、講座、紀要などを通して市民に還元した。</p>	
<p>25 他館や他研究機関と共同研究を行っている。</p>	
<p><評価>B 他館と連携した展示は実施しているが、本格的な共同研究は今後の課題といえる。</p>	
<p>26 複合施設としての特性を活かした調査研究活動を実施している。</p>	
<p><評価>A 特別展、企画展の開催のための資料調査に基づき展示会を開催し、記録集を作成するなどの成果があった。</p>	

IV 資料の収集、保存方針

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会員による評価）
	評価指標	評価・コメント
	評価・指標に対する実績・評価理由	
<p>苫小牧周辺地域のある資料を、「苫小牧市美術博物館資料収集方針」により収集し、適正な管理の下に保存します。</p>	<p>27 館として資料収集の方針を策定している。</p> <p>＜評価＞A 「苫小牧市美術博物館資料収集要綱」を策定している。</p>	<p>＜評価（中央値）＞A ＜内訳＞A:7 B:3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理は長年の課題であると見られます。 ・資料のデジタル化からその利活用をるところまで進めてください。 ・デジタル化について、具体的な計画を策定すべき。
	<p>28 法令、条例、倫理規定などを遵守して資料収集するために、館としてガイドラインを策定している。</p> <p>＜評価＞A 「苫小牧市美術博物館資料収集方針」、「苫小牧市美術博物館資料収集方針に基づく美術資料受入基準」を策定している。</p>	
	<p>29 資料の出所・来歴の妥当性、真贋などの検討を外部の専門家を含めて行い、その助言を得て資料の購入・受入を決定している。</p> <p>＜評価＞A 「苫小牧市美術博物館資料収集方針」に基づき受入れ等を実施している。ただし、美術資料については、原則、資料収集委員会の意見を参考に資料の受入れを行っている。</p>	
	<p>30 未整理資料について整理の計画を立てている。資料の修復を計画的あるいは必要に応じて行っている。</p> <p>＜評価＞B 未整理資料の整理については、資料のデジタル化も含め今後の検討課題といえる。</p>	
	<p>31 収蔵資料のうちの7割以上について資料情報を記録している。また、資料目録のデジタル化に努め、公開・資料情報の追加・更新を適宜あるいは定期的に行っている。</p> <p>＜評価＞B 寄贈資料等が増加傾向にあるが、情報の記録に努めている。資料の管理としてナンバリング、デジタル化は今後の課題である。</p>	

	<p>32 総合的有害生物管理（IPM）の考え方に基づき、日常的に虫菌害の予防措置をとっている。</p> <p>＜評価＞B 燻蒸処理や虫害調査を行っている。今後適切な資料管理を行なうための環境整備を進める。</p>	
	<p>33 収蔵品及び展示品の保存・展示環境について温湿度や光量を管理している。</p> <p>＜評価＞A 展示室内では一部温湿度管理を行っている。</p>	
	<p>34 展示室内に監視員や監視カメラを配置している。</p> <p>＜評価＞A 特別展では監視臨時職員、企画展ではボランティアによる監視員を配置、防犯対策のため監視カメラを設置している。</p>	
	<p>35 資料の貸出しを認めると同時に規定・手続きを整備している。</p> <p>＜評価＞A 資料の貸出規定を定め、近隣館園での事業や研究、書籍への画像や情報掲載のために利用されている。</p>	
	<p>36 他館や研究施設と連携し、資料の保存・管理に対する情報を積極的に収集している。</p> <p>＜評価＞B 学芸職員部会、研修会への参加により、他館等との連携はできているが、今後はより一層の管理レベルの向上を図る。</p>	

V 管理運営

事業活動計画	一次評価（美術博物館による評価）	二次評価（協議会による評価）
	評価指標 評価・指標に対する実績・評価理由	評価・委員コメント
<p>安心できる美術博物館として、施設の改善に努め、館内利用の快適度を高めていきます。</p>	<p>37 施設・設備の維持・改善について計画を立てている。</p> <p>＜評価＞B 施設・設備全体が老朽化しているため、施設の維持管理について、独自点検を行っているほか財政当局と協議している。</p> <p>38 危機管理マニュアルを整備し、防災・消防・救急・救命訓練を定期的実施している。</p>	<p>＜中央値＞A ＜内訳＞A:8 B:1 C:1</p> <p>・館内は清掃が行き届き、たいへん快適です。休憩コーナーも開放的な空間ですが、1階から2階への導線が分かりにくいように感じます。</p>

	<p>＜評価＞A 定期的に防災・消防訓練を実施している。</p> <p>39 バリアフリー化について改善が必要な個所を把握するための自己点検を実施している。</p> <p>＜評価＞A 適宜点検し、「苫小牧市バリアフリー特定事業計画」に基づき実施している。</p> <p>40 案内表示に関しては、できる個所からまたは計画的に改善を行っている。来館者の動線に関して目視調査などによって現状を把握し、必要な改善を行っている。</p> <p>＜評価＞A 現状職員同士の見直しによる改善を図っているが今後、市建築等の専門職員の意見も反映させたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内外が暗い感じがする。 ・施設の維持・改善について、予算措置に基づく、計画（数年間の）を立てる必要があります。収蔵庫の狭隘化の問題も解決してください。
<p>事業の質を担保しながら、経営的な視点を持って効率的に運営・管理します。</p>	<p>41 館内の美化に努めるほか、休憩コーナーを設置するなど利用者の利便性向上に努めている。</p> <p>＜評価＞A エントランスおよびラウンジを無料で開放するなど、利用者にとって心地よい館内空間を意識して努めている。</p> <p>42 利用実態に応じて開館時間を延長したり夜間開館を行ったり、開館時間の設定の見直しを行っている。</p> <p>＜評価＞B 夜間開館について今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。今後も利用者の利便性を考慮し検討していく。</p> <p>43 質問・相談・問い合わせができる体制（窓口、電話・ファックス・手紙、インターネットの活用など）を整えている。</p> <p>＜評価＞A エントランスの学芸員相談コーナーや、ホームページにおいて利用者の意見を広く聞く体制を継続している。</p>	<p>＜中央値＞A</p> <p>＜内訳＞A:9 B:1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物・ロケーションが素晴らしいのでもう少し入館者数の目標を多くしては如何でしょうか。 ・外部資金の獲得に努めてください。
	<p>44 館と設置者の間の連絡調整を定期的に行っている。</p> <p>＜評価＞A 教育委員会のほか、市の関連部署との連携を行っている。</p> <p>45 館の事業や業務に関して、意思決定のための会議を定期的に行っている。</p> <p>＜評価＞A 週1回の全職員での定例会議や、担当</p>	

	<p>者間でのミーティングを随時行っている。</p> <p>46 展覧会ごとの観覧者数について目標を設定し、目標を達成するために年度毎及び中長期的な経営計画を立てている。</p> <p>＜評価＞A 入館者数の目標値は市基本計画(2018～2022年度)で32,500人と設定。また、各展示会の観覧者数については、特別展が5,000人、企画展は一展示会につき3,000人の目標を立てている。</p> <p>47 事業面、管理運営面など全般にわたる自己評価及び外部評価を実施している。</p> <p>＜評価＞B 平成26年度より本格実施を計画(本評価)しているが、内容については必要に応じて改善を要する。</p> <p>48 年報、要覧やインターネットを通して、事業実績や館の運営状況を公開している。</p> <p>＜評価＞A 毎年発行している年報、紀要、美術博物館だよりは、ホームページ上でPDF版を公開している。</p> <p>49 外部資金の効果的な導入を実施している。</p> <p>＜評価＞A 可能な限り外部資金を利用している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な目標を設定していますが、それが未達だった場合、どのように管理運営にフィードバックするのか、システムを整備する必要があると思います。 ・特別展、企画展とも会期日数の割には目標が小さい。リピーターが少ないのではないかと。
<p>すべての人にとって利用しやすい環境を整えます。</p>	<p>50 館として広報宣伝計画を策定している。</p> <p>＜評価＞A 毎年度秘書広報課に次年度の計画書を提出し、計画に沿って市広報誌に掲載している。</p> <p>51 館のホームページを開設し、掲載内容を適時・適切に更新できる体制をとっている。</p> <p>＜評価＞A ホームページは定期的に更新し、最新情報を公開している。</p> <p>52 館の広報誌(ニュース・レターなど)を発行している。</p> <p>＜評価＞A 「美術博物館だより」や、子ども広報部の広報誌「びとこま」を発行している。</p> <p>53 入館者数増加に向けた取り組みをしている。</p> <p>＜評価＞A 利用者のニーズを反映した企画の検討、並びに新聞への情報掲載、関係機関への印刷物の配布を行っている。併せて、フェイスブックとツイッターを運用し、利用者への情報発信と利便性の向上を図っている。</p>	<p>＜中央値＞A</p> <p>＜内訳＞A:8 B:2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報については、それがどの程度来館者数増加に結び付いているか分析して、業務量を調整されるとよいと思います。 ・もっと幅広く市民参加を検討するべき。 ・正面玄関に企画展の看板が無い時は、開館しているのか、閉館しているのか。利用者にとって分からないのではないかと。市民が率先して入館する気にならないのでは。 ・入館者増のためには照明を増やす等の工夫が必要。構造的なものもあると思うが、エンタラン

<p>54 館の利用実態や動向、利用のニーズを把握するために館利用に関するアンケートやモニター調査を実施している。</p>	<p>スホールも暗い感じがする。</p>
<p>＜評価＞A 各事業や館自体についてのアンケートを実施し、利用者のニーズの把握に努めている。</p>	
<p>55 「友の会」を設置すると共に「ボランティア制度」を導入している。</p>	
<p>＜評価＞A 登録調査研究支援団体として、「郷土文化研究会」、「博物館友の会」、「美術館友の会」を支援している。併せて、「ボランティア制度」を導入し、展示会の監視活動を実施している。</p>	
<p>56 地元 NPO などと関わるなど、市民が館の事業に参画する機会を設けている。</p>	
<p>＜評価＞A NPO法人樽前 arty プラスと連携した子ども広報部「びとこま」の活動など、NPO と協力した事業を展開している。</p>	
<p>57 「博物館協議会」などを通じて市民に、館の運営に参画してもらっている。</p>	
<p>＜評価＞A 「美術博物館協議会」を設置し、年2回開催している。</p>	
<p>58 地元の企業・団体（観光協会、商工会議所など）と協賛・協力し、事業を実施している。</p>	
<p>＜評価＞A 各展示会において地元企業や新聞社の後援を得ている。また特別展については、商工会議所の協力を得てチラシ等の配布を行っている。</p>	

5 これからの美術博物館のあり方について

苫小牧市美術博物館実施計画（3期目）の基本方針は、地域に関わる資料の収集と保存、学芸員の専門性を生かした調査研究の実施、そして、外部機関や市民団体とのネットワーク強化によって、子どもたちや市民が知的好奇心や自然・文化芸術への学びを深めることができる質の高い美術博物館となるようにするとされている。この観点から、展示事業、教育普及事業、調査・研究活動、資料の収集・保存方針、管理運営の5項目の事業及びそれらを細分化した58項目の評価指標について、美術博物館が自己点検評価（一次評価）を実施した。次に、美術博物館協議会委員10名が、一次評価結果、美術博物館事業報告等の資料および事業の視察などをもとに二次評価を行った。

【総合評価】

美術博物館による自己点検評価（一次評価）では58指標のうち47指標(81%)がA評価、11指標（19%）がB評価となった。

美術博物館協議会委員による二次評価では「教育普及事業」に関し、委員全員がA評価をつけ、コロナ禍にあっても精力的な活動を実施していたと高く評価された。一方、知の源泉となる「調査研究活動」をより充実させるよう指摘があった。資料の整理やデジタル化についても利活用を含めた計画策定が必要と言える。また、「資料の収集・保存の方針」については、収蔵庫の狭隘化がこれまで同様に問題点として挙げられた。収蔵庫問題については予算措置が不可欠となるため、苫小牧市として解消に向けて努力して頂きたい。

厳しい財政事情と人員に加え、コロナ禍の対策を迫られるなど運営は大変なものと同様に推察される。学芸員や職員が協力して課題を克服し、美術博物館の質をより向上されるよう期待したい。

令和4年5月

苫小牧市美術博物館協議会
会長 揚妻直樹

苫小牧市美術博物館協議会委員名簿

任期:令和2年6月1日～令和4年5月31日(2年間)

R3.8.1現在 五十音順/敬称略

氏名	職業・役職
揚妻 直樹	北海道大学苫小牧研究林 林長【会長】
居島 恵美子	苫小牧市美術館友の会 事務局次長
金田 正弘	苫小牧市博物館友の会 副会長
菊地 綾子	フリーランスライター (市民公募)
斎野 伊知郎	苫小牧郷土文化研究会 会長
鈴木 亜沙美	苫小牧市PTA連合会 副会長
田中 雅子	苫小牧市植苗中学校 校長
林 廣志	苫小牧写真連盟 会長【副会長】
山形 知憲	苫小牧市拓進小学校 校長
山田 利一	苫小牧駒澤大学 教授 (市民公募)